

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
俣	また 人①								
侶	リョ とも 人一常①		侶			侶 侶 侶		侶	王勃詩序
							侶		
俺	おれ エン われ 人一常①		俺	俺					
俱	ク ク ともに ①		俱	俱 俱 俱	俱	俱 俱	俱 俱	俱	王勃詩序
俱	人		俱	俱 俱 俱	俱	俱 俱	俱 俱		
			俱	俱					
儉	ケン つましい 常①		儉	儉 儉	儉 儉	儉 儉	儉 儉	儉	羅玉集
儉	人②		儉			儉 儉	儉 儉		
							儉 儉		
個	コ 教5常①							個	五経・人部
候	コウ そうろう うかがう さぶろう 教4常①		候	候 候 候	候 候 候	候 候 候	候 候 候	候	王勃詩序
			候	候	候	候	候		
			候	候	候	候	候		
			候	候	候	候	候		

【俺】2011年、人名用漢字から常用漢字になった。古い使用例がほとんどない。漱石の『坊っちゃん』も直筆手書きでは仮名で「おれ(連)」と書いている。

【俱】第一水準だが、常用漢字でも人名用漢字でもないで人名には使えない。異体字の「俱」は人名用漢字なので人名に

使えるがJIS規格にないという困った字種。現代は大陸中国も台湾も「俱」。

【儉】「儉」の略字だが、中国では使用例が見えない。日本でも江戸よりも前には使用例が見えない。漱石も正字を用いている。現代中国の字体は草書の字体。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
俣												国字
侶	侶	侶	侶			侶 侶		侶				侶 現代中国
			俺	俺								俺 元・趙孟頫 現代中国
俱	俱	俱	俱			俱						俱 現代中国
俱												
儉	儉	儉	儉	儉	儉	儉	儉	儉				儉 現代中国
個			個	個	個	個	個	個	個	個	個	个 現代中国
候	候	候	候	候	候	候	候	候	候	候	候	候 現代中国

【個】『五體字類』は「箇」と同字としている。『陸軍幼年学校用字便覧』も「箇」と同じ字種としてあげている。現代中国では「個」も「箇」も「个」を使う。

【候】江戸より前は「イ+候」の字体。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
倂	コウ さいわい 人①						倂	倂	倂 鄭聲指歸
借	シャク かりる かず 教4 常①		借	借借			借借借	借	借 元維嘉誌 屈元寿嘉誌 五経・序 杜家立成
修	シュウ シュ おさまる おさめる 教5 常①		修	修			修修修	修	修 元維嘉誌 屈元寿嘉誌 五経・序 杜家立成
倉	ソウ くら 教4 常①	倉	倉	倉	倉	倉	倉倉倉	倉	倉 元維嘉誌 屈元寿嘉誌 五経・序 杜家立成
値	チ あた い ね 教6 常①		値				値値	値	値 元維嘉誌 屈元寿嘉誌 五経・序 杜家立成
倒	トウ た おす た おれる さ かさ ま 常①		倒	倒			倒倒倒	倒	倒 元維嘉誌 屈元寿嘉誌 五経・序 杜家立成
俳	ハイ 教6 常①		俳				俳俳俳	俳	俳 元維嘉誌 屈元寿嘉誌 五経・序 杜家立成
倍	バイ そ む く ま す 教3 常①		倍	倍			倍倍	倍	倍 元維嘉誌 屈元寿嘉誌 五経・序 杜家立成

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
倂	倂	倂	倂				倂					倂 幸 草書辨体 現代中国
借	借	借	借	借			借	借	借	借	借	借 借 元・鮮于樞 現代中国
借	借											借 元・趙孟頫
修	修	修	修	修	修		修	修	修	修	修	修 現代中国
修	修											修 現代中国
修	修											修 現代中国
倉	倉	倉	倉	倉			倉	倉	倉	倉	倉	倉 現代中国
倉	倉											倉 現代中国
値	値	値	値	値			値	値	値	値	値	値 現代中国
値	値											値 台湾繁体
倒	倒	倒	倒	倒			倒	倒	倒	倒	倒	倒 現代中国
倒	倒											倒 現代中国
倒	倒											倒 現代中国
倍	倍	倍	倍	倍			倍	倍	倍	倍	倍	倍 現代中国

【修】後藤朝太郎「教育上より見たる明治の漢字」では、「久」を標準字、「攴」を許容字とする。大徐篆文の字形を素直に楷書や明朝体にすれば「攴」になる。現代中国は「攴」の字体を書く。

【値】手書きでは傍の「直」に鉤形を書くことはまずない。江

戸では「値」のかわりに「價(価)」または「直」を使う。
 【俳】楷書(唐代の正(統)字体を含む)では傍の左側の縦線をはらわずに止める。弘道軒や現代中国の明朝体(宋体)も同様。
 【倍】漢代は傍の横線を長くする場所が一定していない。康熙字典では傍の1画目は横線。現代中国では点。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
倭	ヒョウ たわら 教5 常①								
倣	ホウ ならう 常①								
倭	ホウ 常①					倭 倭			
倫	リン たくい みち 常①		倫	倫		倫 倫 倫 倫			倫
						倫 倫 倫			
倭	ワ やまと 人①		倭					倭 倭	
偽	ギ いつわる にせ 常①		偽	偽	偽	偽	偽	偽 偽 偽 偽	
偽			偽	偽	偽	偽	偽		
偶	グウ たままた ともがら 常①		偶	偶	偶	偶	偶	偶 偶 偶 偶	
倦	ケン うむ 人①		倦	倦	倦	倦	倦	倦 倦 倦	
券			券	券	券	券	券		
健	ケン すこやか たけし 教4 常①		健	健			健 健		健
偲	シ しのび しよ 人①		偲	偲				偲	

【倭】江戸期よりも古い使用例がみつからない。
【倣】北宋期よりも古い使用例がみつからない。現代中国では「仿」を使う。日本では江戸期よりも古い使用例がみつからない。漱石は草書も使っている。
【倫】 傍の縦線が上に出る、出ないの2種の字体がある。大徐

篆文に倣えば上に出るはず。
【偽】 漢代の隸書ですでに簡略化されている。弘道軒が正(統)字体なのは意外。漢字整理案で傍の4点が線に略されている。現代中国は草書の字体。
【偶】 最終の2画に注目。通(用)字体も正(統)字体も楷書では

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	倭	倭	倭				倭	倭	倭	倭	倭	倭
	倣	倣	倣				倣	倣		倣	倣	仿
	倭	倭		倭			倭					倭
	倭			倭								
	倫	倫	倫	倫	倫		倫	倫		倫		倫
	倭	倭	倭	倭			倭					倭
	偽	偽	偽	偽	偽	偽	偽	偽	偽	偽	偽	偽
	偽											
	偶	偶	偶	偶	偶		偶	偶		偶		偶
	倦	倦	倦	倦	倦		倦				倦	倦
	健	健	健	健			健	健	健	健	健	健
	偲		偲									偲

旁を8画で書いているが、康熙字典では9画。大徐篆文の字体に倣えば8画になるはずだが、1画増やすのが明朝体の様式なのだろう。ところが楷書の弘道軒や文部省活字も康熙字典に倣って9画にしている。
【倦】 干禄字書の〈通〉の字体が拓本と江戸版本と異なる。

【健】 江戸時代は「𠄎」を「𠄎」の形で書くことが多い。
【偲】 大徐本と段注本の字体が異なる。大徐本は四角の頭に来角をつける傾向があるようだ。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
側	ソク かたわらがわ 教4 常①								杜家立成
停	テイ とどめる やめる 教4 常①								王勃詩序
偵	テイ うかがう 常①								
偏	ヘン かたよる ひとえに 常①								法華義疏
偉	イ えらい 常①								王勃詩序
僅	ケン わずかに わずかに 人→常①								杜家立成
傘	サン かさ 常①								
備	ビ そなえる そなわる つぶさに 教5 常①								杜家立成

【側】金文では隣の右側は「人」であって「刀」ではない。
 【偉】現代中国は草書の字体。
 【傘】『謹身往来』の字体は康熙字典よりも1画多い。漱石が書いている字体は『謹身往来』の字体の省略体か。「漢字整理案」で字典體として掲載されている字体が、康熙字典とは異

なり、漱石が書いた字体と同じ。
 【備】説文では人部にあるが五経文字では用部にある。旁を「久+用」と書く異体字がある。「明治の漢字」に「女+田」を書く例がある。現代中国では「イ」を省略して「久+田」の字体を使っている。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												側 現代中国
												停 現代中国
												偵 現代中国
												偏 現代中国
												偉 現代中国
												僅 仅 78字形 現代中国
												傘 参考 現代中国
												備 备 字典體 現代中国

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。